

メイプル



(6月号 NO②)



令和 3年 6月 17日
ニュージャージー日本人学校
校長 菱沼省二

【校長より】

『SDGs について』

先日(6月4日)、6年生が「SDGs」について、初等部児童全員に説明をしました。6年生の3名は、それぞれの役割をもち、低学年の児童にも理解できるように分かりやすい言葉を使い丁寧な説明をしていました。

あれだけのプレゼンテーションをするためには、かなりの準備が必要だったはずですが、ICT機器を活用し、スクリーンに映像を映すなど視覚にも訴える楽しい時間でした。

視聴する側の、1年生から5年生の態度もとても立派でした。世界的な視野に立つことができる良い機会を得ることができた有意義な時間でした。

教室に戻った6年生と同室の5年生、「SDGs17個の目標の中で一番大切なものは何だと思いますか?」と担任の問いかけ
17個の中で何に大切さを感じていると思いますか?



【SDGs 17 の目標】

- | | |
|-----------------------|--|
| ① 貧困をなくそう | <i>No poverty</i> |
| ② 飢餓をゼロに | <i>Zero hunger</i> |
| ③ すべての人に健康と福祉を | <i>Good health and well-being</i> |
| ④ 質の高い教育をみんなに | <i>Quality education</i> |
| ⑤ ジェンダー平等を実現しよう | <i>Gender equality</i> |
| ⑥ 安全な水とトイレを世界中に | <i>Clean water and sanitation</i> |
| ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに | <i>Affordable and clean energy</i> |
| ⑧ 働きがいも経済成長も | <i>Decent work and economic growth</i> |
| ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう | <i>Industry, innovation and infrastructure</i> |
| ⑩ 人や国の不平等をなくそう | <i>Reduced inequalities</i> |
| ⑪ 住み続けられるまちづくりを | <i>Sustainable cities and communities</i> |
| ⑫ つくる責任 つかう責任 | <i>Responsible consumption and production</i> |
| ⑬ 気候変動に具体的な対策を | <i>Climate action</i> |
| ⑭ 海の豊かさを守ろう | <i>Life below water</i> |
| ⑮ 陸の豊かさも守ろう | <i>Life on land</i> |
| ⑯ 平和と公正をすべての人に | <i>Peace, justice and strong institutions</i> |
| ⑰ パートナーシップで目標を達成しよう | <i>Partnerships for the goals</i> |

※次ページに続く

⑩の「人や国の不平等をなくそう」でした。

私は驚き、少しやるせない気持ちになりました。そうです。子供も「アジアンハイト」のことで心を痛めているのです。しかし、話し合いの雰囲気は決して暗い悪い雰囲気ではありませんでした。自分が知っていることの情報提供（アジアンハイトの事例、理由）や「これからどうしていったらいいのかわかるか」を意見交換する前向きな雰囲気でした。

この状況下に置かれている子供は、可哀そうだけでなく、人として成長するチャンスを見出しています。国内の子供が経験できない貴重な思考を体験し、成長しているようです。

SDGsを学んで、世界のことを知り、子供の考え方や行動が変わって行くことを願っています。



【アメリカに学ぶ】

「ネイティブアメリカンの教え」

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします
敵意にみちた中で育った子はだれとでも戦います
ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります
ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります
心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります
はげましを受けて育った子は自信を持ちます
ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります
公明正大な中で育った子は正義心を持ちます
思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます
人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします
仲間の愛の中で育った子は世界に愛をみつけます



加藤諦三著より

この詩の中に、“人に認めてもらえるなかで育った子は自分を大事にします”という一節があります。「子どもを認める」なんて当たり前のように感じますが、無意識の中でできていないこともある気がします。 ※少なくとも、私は反省することがしばしばです。

たとえば、勉強やスポーツ、習い事などにおいて、子どものために成功を祈った親は、子どもが成功しなかったとしても、自信を与えることができるといいます。しかし、子どもの成功を誰かに自慢したい、自分の夢を子どもに叶えてほしいなど、子どもの成功によって自分が満足したい、社会的地位を上げたいと無意識に思っている親は、子どもが成功してもしなくても、精神的に追いつめてしまうのではないのでしょうか。

そもそも後者の場合、親自身が劣等感に悩んでいるため、現実の子どもの努力を認め、励ますことがなかなかできません。子を育てる親自身が、自分の心の葛藤を解決できてはじめて、我が子の努力を認め、理解し、子どもの心理的問題の解決に協力できるのかもしれない。人の親であることは難しいことです。いつになったら、「親であることの難しく長いトンネル」を抜け出せるのか、今後も悩み続けそうです。

【生徒の考え】

『また聞きたくなる放送を』

放送委員長 6年 小林 華

私はNJ校をより良い学校にするための案を考えてみました。一つ目は「みんなでたくさん遊べる学校」です。みんなで遊べれば、交流の機会が増え、それぞれの学年も仲良くなれると思うからです。また体力も上がるので、良いことがたくさんあると思います。二つ目は、放送委員長としてみんなが「笑顔、また聞きたくなる楽しい放送」をすることです。自分だけが楽しく放送をしても、放送を聞いている人が楽しくなかったら意味がありません。自分も聞いている人も楽しくできるような放送をしたいと思っています。私は、これからも6年生として頑張ろうと思います。



『理想の学校』

図書委員長 6年 居石 莞奈

皆さんは、自分の「理想の学校」について考えたことはありますか？今日は、私の「理想の学校」と、NJ校を理想の学校にするためにどのような取り組みをするのかを紹介したいと思います。

まず、私の理想の学校は、学年関係なく仲良くでき、他学年との交流を大切にし、助け合いができる学校です。そのためにしていきたい取り組みが3つあります。

1つ目は、同じ学年や年齢の近い学年だけではなく、もっとたくさんの学年と関わりあえるようにしたいです。NJ校は初等部・中等部の合計9学年があるので、NJ校だからこそできるのではないかと思います。

2つ目は、他学年との交流を授業だけでなく、休み時間にも交流をして、もっと仲を深められたらいいと思っています。委員会など、授業で他学年との交流はありますが、休み時間の交流は少ないと思います。会って終わりではなく、話したり遊んだりして交流を深めていきたいです。

3つ目は、誰かが困っているときには声をかけたり、話を聞いてあげられたりできるようにしたいです。

「誰かが助けてくれるから自分は助けなくてもいい」というのではなく、「自分が助けてあげたい」と思うことが大切だと思います。私はこれからの学校生活で、これらの取り組みをして、少しでも理想の学校に近づけてよりよい学校にしていきたいです。



『NJ校』

集会委員長 6年 宮崎 紗椰

私はNJ校が、一言でいうと「みんなが楽しいと思える学校」、具体的にいうと「それぞれが協力し合いながら、共に学べる楽しい学校」になると良いなと思います。

私はNJ校の良さは少人数であることや、幅広い学年の児童生徒がいることだと思います。まず、少人数だと、一人ひとりがさまざまな場で活躍することができます。日本の学校では1クラス・1学年の人数が多いため、全員の意見を取り入れたり、全員が活躍したりするということは難しいです。NJ校はそれができるのでそこから学べることが多いと思います。次に、幅広い児童生徒がいるので、初等部は中等部と、中等部は初等部と学校と一緒に過ごすということはとても新鮮な体験であると共に、メイプル祭や運動会など、幅広い学年がいるからこそ面白いことも多いと思います。

そして、上の一つ目の理由である「少人数だと一人ひとりが活躍できる」ということは、五・六年生の複式学級にも当てはまると思います。六年生の場合には三人しかいないので、国語や算数の時間は「司会」「記録」「フォロワー」に分かれて役割は交代しつつ、自分たちで主に授業を進めていきます。分からないところは先生としますが、一人一つは役割があり、発表する回数が多いので、三人全員がいろいろな場面で活躍することができます。さらに、複式学級だと教室も同じなので、休み時間に一緒に遊ぶだけでなく、六年生が初等部の決め事をするときにはアイデアをもらったり、五年生が分からないことは六年生と一緒に解決したりと、お互いに協力することも多いです。私は、これらのNJ校の良さを活かしてNJ校をより良い学校にしたいです。

また、休み時間はみんなが楽しみにしている時間の一つでもあると思うので、楽しんでもらえるように、集会委員としてレクもたくさん企画したいと思っています。一学期は学校行事や個人の都合であまりまだできていませんが、どんどんペースを上げて企画していけるように頑張りたいです。改めて、私はそれぞれが協力し合いながら、共に学べる楽しいNJ校にしたいです。そのための活動を、これからも積極的に行っていきたいです。



【その他・連絡事項】

①2学期の行事予定

《メイプル祭》

10月2日（土） ニュージャージー日本人学校内で実施

収容人数の制限はありますが、可能な範囲で保護者の方にも来校していただき、子供の頑張っている姿を見てほしいと考えています。楽しみにしててください。

《職場体験》 中等部

9月8日（水）～ 9月10日（金）3日間に体験・講演・見学等を企画調整中です。

『候補内容』

9月 8日（水）職業体験（作業体験、プレゼン体験等） ※7年・8年

9月 9日（木）航空教室（JFK空港内で見学） ※7年～9年

9月10日（金）職業体験（職業講演、新聞記事の作成体験等） ※7年・8年

②今後のコロナ対応について

基本コンセプト

※再掲載

- ・短期的な社会状況の変化に振り回されることなく、児童生徒が安心安定した学校生活を送ることができるよう配慮する。
- ・学校としての対応実行期間は、「学期単位」を基本とする。
- ・不安を抱える児童生徒が不利益を受けることがないように、救済対応を講じる。

・スクールバスの運行

⇒今年度中は現在の運行状況（A・B・Cの3路線）を維持します。

・校内でのマスク着用、ソーシャルディスタンス対応を継続します。

※休み時間や体育の時、熱中症対策は優先し、マスクを外すよう指導します。

③校外学習（4年生～9年生）等について

- ・6月24日（木）、「フィラデルフィア校外学習」を実施します。

対象児童生徒 4年生～9年生

- ・「アメリカ社会の理解」を主題とし、4年生から9年生で学習に取り組みます。
- ・児童生徒は、2台のバスに分乗し、ピックアップ形式でバス乗車し現地へ向かいます。
- ・警備体制やコロナ感染症対策が充実した施設選択、行動方法を工夫します。
- ・なお、当日は低学年児童（1年生～3年生）だけのバス登下校を避けるため、教職員がバスに同乗する予定です。

④養護教諭勤務時間変更について

- ・柳田聖実養護教諭の勤務時間を、10時15分から13時15分までと変更します。

⑤音楽の授業について

- ・コロナ感染症対策を取りながらの屋外での楽器演奏。メイプルの木が喜んでいるように見えます。
- ・音楽が聞こえるNJ校に感動しています。



サウンドオブミュージックの一場面ようです